

令和3年度第5回小金井市農業委員会農政部会  
(小金井市農業振興計画策定) 会議録

開催日時	令和3年11月19日(金) 14時30分から15時50分まで			
開催場所	小金井市役所第二庁舎801会議室			
出席者	委員	相原宏次、井寺喜香、岩本千絵、大久保勝盛、岸野有次、谷合正明、益田智史、松嶋あおい、渡邊雅毅		
	その他			
	事務局	高橋事務局長、山崎係長、江平主任 (株) 地域計画建築研究所(アルパック) 2人		
欠席者	2人			
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可	不可・一部不可	傍聴者数	1人
議事日程	1 開会 2 部会長挨拶 3 議題審議 (1) 計画の素案の検討 (2) その他 4 閉会			
配布資料	次第 資料1: 「小金井市農業振興計画」の素案 参考資料1: 小金井市農業振興計画施策の整理 参考資料2: 小金井市農業振興計画施策案 参考資料3: 計画策定スケジュール案			

# 1 開会

## 2 部会長挨拶

### 3 議題審議

#### (1) 計画の素案の検討

部会長 計画の素案の検討につき事務局より説明をお願いします。

[資料に基づき事務局説明]

部会長 前段の現状と課題の部分に関しまして、このまま前段部分に掲載するか、資料編に掲載した方が良いかについて事務局にて検討しています。ご意見等ございますでしょうか。

委員 資料編に移すことを検討しているのは、8頁からの基礎調査の部分でしょうか。それともその基礎調査の基データのことでしょうか。

事務局 農業経営基盤強化促進法に基づく基本構想との関係上問題がないようであれば、8～17頁の内容を43頁以降の資料編に組み込んでいけないか検討しております。

委員 アンケート結果等の細かいデータを資料編に移すのは良いと思いますが、8～9頁の基礎調査のデータは、現状を把握するうえで必要な情報であるため、抜粋してでも残しておくべきだと思います。現状が示されていないと、なぜこの施策が講じられたのか等、現状と施策のつながりが理解出来なくなるように思います。

部会長 いたきだましたご意見をもとに、基礎調査のデータは残し、その他を資料編に組み込む等再度検討しながら調整してまいります。

委員 2頁に「現行計画の振り返り」とあります。同様に「現行計画」という文言が何度か使われているのですが、ここで言う「現行計画」は期間の終了に伴い、今後は「前農業振興計画」という位置付けになります。このあたりの表現の整理を今後していく必要があるように感じます。

事務局長 新たな計画を作っている最中ですので、「前農業振興計画」のことを便宜上「現行計画」と記載していますが、文言は今後整理させていただく予定です。

部会長 その他前段部分に関してご意見ございますか。

次に、22頁「施策の展開」に進みます。施策に関しましては、前回の部会後に個別検討会を開催し、議論を重ね、再度整理いたしました。施策に関してご意見をいただけたらと思います。

委員 基本施策5の『「農」あるまちづくり』に関してなのですが、「農業があるまちづくり」等「農業」が主体となるような表現はかねてから農業団体等により使われていますが、そこを「農」に置き換えてしまうと、農業者が不在でも取り組める農的な利用という意味合いが強くなり、市民的な利用が主であるように受け取る人が多いように思います。

農業振興計画は、農地があり、農家がいる、農業が成り立つ、というような「農業」に重点を置くものとなりますので、「農」という表現には疑問を感じました。

部会長 『「農」あるまちづくり』という表現だと市民に寄りすぎているという印象を受けるということですね。

委員 この計画書は、農業者を守るために発信するものなのか、市民たちが意識を持つことを目的とするものなのか、誰に向けて発信するべきものなのかによって表現が変わるのではないかと思います。

事務局長 「農」という表現に関しましては、今回の計画の肝心な部分であると考えています。

誰に向けて発信するべきものなのか、に関しましては、農業者と市民のどちらかではなく、両方を対象としています。

従来 of 農業振興の視点でみると、「農」という表現に違和感があることも理解できます。農地や農業者を守っていくことはもちろん重要なことで、農業振興計画という視点においては、そこがベースになると思います。

一方で、都市農業という観点から考えると、住宅地の中に農地が隣接している環境下においては、市民の理解がないと長期的な存続が難しいという側面もあるように思います。

近年、農地や農業に関する市民の関心も高くなっています。そういった傾向を上手くコミュニティに繋げていくと、市民の理解もより深まるのではないかと感じています。

34頁の「計画の推進」において、「ALL小金井による推進」という考えを提示しています。現在改訂中の産業振興プランにおいても、農的な要素を産業振興の視点から組み込んでいくというアプローチをとっています。

農業者を守っていくという姿勢を主軸として持ちつつ、市民も含めた様々な人と連携し、皆で支えていくという考えも新たな視点として打ち出すことがこれからの時代必要なのではないかと考えています。

事務局 素案の5頁下にある図をご覧ください。こちらの図では、農地や農業者、生業としての農業の3つを含めて「農」というように表しています。そして、その周りに市民の応援があることをイメージしています。

「農」が広く繋がることで農業の振興になり、環境やまちづくり等にも繋がっていく、そのような考えで都市農業の発展の形を示したいという想いを持っています。

副部会長 これまでの議論に基づき、基本施策の1から3は「農業」を主軸に置いたものとなっています。また、市民と農の関わりを示していた旧基本施策の5と6も統合して一つになったという経緯があります。当初より、市民と農の関わりを示す部分が減っている印象を受けます。そこでさらに基本施策5の「農」を「農業」に置き換えてしまうと、自身を含め、農業者ではないが小金井の農業を応援したい市民が関わりにくくなってしまいうように感じます。

農業者ではない人が農に興味を持ち、自ら耕作し、食し、生活の中に取り入れるということも大切で、そこから農業者を支える、農地を支える、というように裾野が広がっていく、そういった考えも重要だと思います。包括的な「農」という概念をぜひ残していただきたいです。

委員 32頁の「5-1」に記載されている主な取組の下の4つは、農業者が主役であるような内容に感じます。農の全てに関わっているのが農業者です。

まちづくりの観点においても、区画整理等がある際に、農業者が減歩で道路や宅地等の土地を提供することにもなります。そのような意味で、農業者がまちづくりにも貢献しているという側面をお伝えしたかった次第です。

委員 「農」という文言には「農業」も含まれるが、「農業」という文言には、市民も関われる「農」の要素は含まれないように感じました。

農業振興という言葉はどう捉えるのかによろしいと思います。計画を農業の振興として捉えるのであれば「農業」でも良いのかもしれませんが、軸が農業者と市民の両方に向いているのであれば、「農」という一文字の方が、より含みが大きいように思います。

部会長 農政部会においても、「農業」だけに軸を置くのであれば農業者だけで議論すれば良いところを、委員にも農業者以外の方が半数ほど入っていますので、部会の構成自体が農業者と市民の両方に重きを置いているように思います。こういった体制からも広めに農を捉えていこうという意味合いがあるように考えます。

基本施策につき他にご意見はございますか。

委員 32頁にある「フードロスの推進」や17頁の「フードロス運動」等、一部ミスリードしてしまうような表現になっているので、「フードロスの削減」や「フードロスの解消」のように修正していただけたらと思います。

事務局 文言を整理したいと思います。

委員 5頁の図に関しまして、「農」というのは、全てに関わってくるというお話でした。それであれば、中心だけが濃い色なのではなく、全体に農が関わっているということを示せるとイメージがより伝わりやすくなるように思います。

先程ありました「農」に関するお話も、読む人によって捉え方が異なると思いますので、図だけではなく、この計画での「農」に対する考え方を説明に加えていただけると良いと思います。

部会長 施策について他にご意見等ございますか。

それでは、34～36頁の「計画の推進」に進みます。

#### [資料に基づき事務局説明]

部会長 36頁の「ALL小金井による推進（イメージ）」と、5頁の図は別物なのでしょうか。36頁の図は各団体を表しているということですのでよろしいですか。図と内容が少し似ているため分かりづらいかもしれません。

委員 「農」をキーワードにいかに市民を巻き込んでいけるかが重要であると考えています。「ALL小金井による推進（イメージ）」に関しましては、「～団体」等のようにもう少し具体的な文言を入れた方がイメージしやすいように感じました。

事務局長 具体的な文言でいくかは事務局でも議論をしており、現時点では抽象的なイメージで示しています。団体名等を具体的にすることは可能ではありますが、この点については検討させていただきます。

- 事務局 団体名を載せると漏れが生じる可能性等の問題や各分野においてどこまで載せるかという問題もあります。
- 委員 重要なのは市民にとって分かりやすく、関わりやすい形にすることのように思います。現状だと伝わりにくい印象を受けます。
- 副部長 36頁の図は農業、環境、観光というように並んでいますが、何かに準じてこのような順番になっているのでしょうか。もしこの順番に意味がないのであれば、教育と福祉、まちづくりと防災のように近いものは隣に並べると良いように思います。
- また、記載されている文言に該当しない市民はどうなるのでしょうか。
- 例えば「健康推進」だとすべての市民に関係すると思いますが、「福祉」にしてしまうと漏れてしまう方が出てくるように思います。「環境団体」と表記するとさらに狭まれてしまいます。
- 「ALL小金井」には、全ての市民が含まれると思いますので、表現を工夫する必要はあるかもしれません。
- 委員 例えば、「いきがい」「健康」「暮らしやすさ」等のイメージしやすい表現の方が市民を巻き込めるかもしれません。
- 委員 そのような表現を用いた図は5頁にあります。
- 部長 5頁の図との違いをどう表現するのか、文言を全く違うものにするのか、今後整理する必要があるように思います。
- 副部長 「ALL小金井」には誰が含まれるのかということなのですが、「ALL」だとするなら、小金井の市民全員が入らないとおかしいように思います。現状の図だと具体的過ぎるのかもしれませんが。
- 部長 言葉にせずに、例えば農業者と市民が手をつないでいるイラストを載せるといった形で表現することも考えられるかもしれません。この部分は今後検討させていただきます。
- 委員 行政の観点から35頁の「計画の推進」をみると、「推進体制」はどうなるのか、その調査は誰が担うのかというところが気になります。市役所が全体をみる、その中で農業者等の関係者がどのようにこの計画に携わっていくかを表す推進体制の図や説明があり、それが計画の推進につながっていく流れになるのだと思います。
- 現状では、推進の方向は見えるが、推進の体制が見えません。このままだと、皆誰かがやってくれるだろうと思ってしまうように感じます。
- 委員 推進の体制につきましては、37頁で若干触れられています。
- 部長 それぞれの施策において主体がかわってきます。そういった意味でも、どの施策にも対応できるよう現状の表現になっているように感じます。
- 事務局長 実施主体は、JAや農業委員会、市民団体等、各施策によって色々と考えられます。具体的に団体名等を示してしまうと、硬直化してしまう恐れ等もあるため、この計画で個別の団体を記載するのは難しいと考えています。
- 市の計画となりますので、基本的に市が全体的に関わっていくことにはなると思いますが、全て行政が担うのかというところではありません。実施主体は、施策によってそれぞれ異なるように思います。そのような関係から、「ALL小金

井」という表現を用いています。

「ALL小金井」の説明については今後より分かりやすくイメージできるよう工夫をしていきたいと思ひます。

委員 推進体制を詳しく示すより、個人や団体といった意欲を持った当事者が計画書に基づき行動を起こせるような内容にすることが重要であると感じます。

委員 生産意欲や向上心を持った農業者等が、周りの人を巻き込んでいかなければなりません。JAの組合等を通して啓蒙活動をしていく必要があると思ひます。

部会長 これまでは農業者が中心でしたが、これからは市民も巻き込んでいく計画になるため、農業者と市民の両方に向けた啓蒙活動と理解促進が必要になってくるように思ひます。

事務局長 コミュニティとの関わり等、今までの農業だけではない方法で農地の保全・活用に取り組んでいくことも必要になります。新しい取組に関しては、農業委員会を通じて、農業者にも周知をしていく必要があると思ひます。

委員 農業者が、自分の農地に生産以外の価値があること、必要とされていることを気付けるような説明もあると良いように思ひます。どこが窓口となるのかを分かりやすくし、行動したい人を受け入れる環境づくりが必要なのではないでしょうか。

委員 現時点における意欲のある人だけを注視してこの10年の計画を作るのは適切でないように思ひます。今は意欲を持っていなくても、5年後に意欲が出るかもしれません。成功の定義も様々だと思ひます。意欲がある人以外の農地も同じ農地であるという側面もあります。

家族経営だけで、生産を向上させている農業者もいます。土地を残す、農業を守るということに関しては、そういった農業者を含め全体を見て取り組んでいく必要があるように思ひます。

まちづくりの視点を持つことももちろん大切です。しかし、公共性だけに重点を置くのではなく、基本施策1や2がそうであるように、地道に生産をしている農業者も取りこぼすことのないよう、すべての農業者が当てはまるような計画書にしていくことも重要であると思ひます。

事務局長 基盤は農地であり、農業者であり、農業です。そこに新しい農地の活用方法として社会課題に対する新しいアプローチの仕方が挙げられています。

法整備も徐々に追い付いてきています。そういった状況を農業者にも周知していく必要があります。農業を辞め、農地を手放そうとしている人に新たな可能性や選択肢として捉えてもらえると、農地の保全にも繋がるのではないかと思ひます。

事務局 前回の部会までにいただいたご意見や、農業だけで頑張っている農業者を取りこぼすことのないようにという想いから、以前掲げていた基本施策3の「経営力の向上」を「安定した農業経営の確立」に変更しています。

農業者や市民に分かりやすい計画書にするだけではなく、使いやすい計画書にしていく必要があるという考えを皆様がお持ちなのではないかと感じています。具体的に記載し過ぎますと10年の間で陳腐化し、社会の変化に耐えられず、結果使いづらい計画書になってしまう可能性があります。

どこまで計画書に記載するかというのは難しいところですが、施策として位置付けておくことで、農業者や市民から計画書に基づいて提案があったときに受け止められるつくりをしたいと考えています。そのような使いやすさについても検討を重ねながら進めていきます。

部会長 計画の推進について、その他ご意見がないようでしたら、38頁の「農業経営強化促進法に基づく基本構想に」進みます。

[資料に基づき事務局説明]

部会長 体験型市民農園等を主に取り組んでいる農業者は経営体モデルから外れるのでしょうか。

事務局 体験型市民農園等を運営している農業者においても、認定農業者や認証農業者になるにあたり、経営改善計画書に盛り込む形になりますので、外れているわけではありません。

委員 体験型市民農園も収益のひとつとなりますので、体験型市民農園等をモデルに入れるのは大事なことだと思います。体験型市民農園に活発に取り組んでいる練馬区も経営モデルに入れています。もぎとり等の体験等も加えながら、更に収益を上げている農業者もいます。既に取り組んでいる農業者がいるのであれば、モデルに入れた方が良いでしょう。

副部会長 以前、地域貢献等を認証する小金井独自の指標を設けてはどうかという議論がありました。このモデルは所得のみに基づいているのでしょうか。

事務局 こちらは国の法律に基づいたものになりますので、所得ベースになっています。地域貢献等を認証する指標等に関しましては、こちらに盛り込むのではなく、施策の中に盛り込む等、別途議論する必要があるかと思えます。

委員 経営モデルは、国から指定された情報が載っているのでしょうか。

事務局 国からは指標をたてることを求められており、指標の詳細は市で定めています。

委員 小金井市では50a以上農地を持っている農業者の方が少ないように思えます。農地の減少が続く中で、この経営モデルの農地面積の指標は見合っていないのではないのでしょうか。

このモデルをみた農業者は、50aないから自分には関係のないことだと感じてしまう可能性もあります。また、年間所得200万もいかないから認証農業者になれないとミスリードしてしまう懸念もあります。

委員 小さい面積で収益を上げるしくみをモデルとして載せる方が良いでしょう。例えばハウスがあれば、農地は狭くても収益性は高くなるように思います。

事務局長 面積に関しては、実態に即していないような印象を受けます。座談会でも同様の指摘があり、小規模な農業者も認証を受けられるような制度設計に出来ないのかという話も出ています。

市独自の基準の認証制度を持っている市は珍しく、小金井市を含め数市ほどしかありません。その他の市では似たような指標内容を設けているところがあれば、独自に工夫しているところもあります。検討の是非はあるかと思えます。

- 委員 現状のままだと、作付面積が独り歩きしてしまう恐れがあります。経営モデルに面積を載せる必要はあるのでしょうか。
- 委員 小さい面積を載せる方が良いのではないのでしょうか。
- 部会長 小金井の実態に即した数値を載せられるかどうか今後検討してまいります。
- 委員 市民向けでもあるということなので、QRコードを載せる等、今流行りのしくみを取り入れても良いのではないのでしょうか。
- 事務局 技術的には可能ですが、QRコードで開いたホームページの更新もセットで進めていく必要がありますので、その点も含めて検討したいと思います。
- 委員 今後、事務局とも相談をしながら進めていくこととなります38頁以降の基本構想に関しまして、現在「●●」となっている箇所や根拠となります8～10頁の基礎調査の数値は、どこのデータを使用するかによってグラフデータ等も変わっていくことになると思いますので、この点についてご承知おきください。
- 部会長 他にご意見がなければ、議題審議「(2)その他」に進みます。

## (2) その他

- 事務局 今後のスケジュールの確認をさせていただきます。次回が最後の農政部会です。状況に応じて再度個別検討会を開催することも考えております。次回の農政部会の際に、パブリックコメントに出す計画案を示させていただく予定です。

## 4 閉会

- 部会長 その他にご意見ご質問等ございますか。  
無いようですので、以上を持ちまして本日の会議を終了といたします。